

No	提 案 名	提案団体名	
		代表者氏名	所 属
10	水辺をいかしたまちづくり —田川活用計画—	宇都宮共和大学 都市・アメニティ研究会	
		栗田 知樹	宇都宮共和大学シティライフ学部
		指導教官 氏 名	山島 哲夫

1 提案の要旨

宇都宮市は、まちづくりの基本となる「第5次宇都宮市総合計画」の中で、宇都宮市が持つブランド力を向上させる必要性を打ち出している。また、宇都宮らしさを伝えるブランドメッセージに「住めば 愉快だ 宇都宮」を掲げ、宇都宮を愉快的なまちにするためのまちづくりが始められている。

当研究会では、宇都宮のブランド力向上のためには、地域に存在する資源に着目しそれを活かすことが有効であると考えた。そこで今回は、宇都宮市を南北に縦断している「田川」に着目することとした。田川は宇都宮の中央を南北に縦断している大きな存在であるにもかかわらず、他の都市と比較し積極的な活用がなされていない。その位置からしても、新たな活用方法を提案することで、宇都宮市民により身近なものに感じてもらえると考えた。

田川は、歩道やサイクリングロードなど日常的に市民に活用されている部分もあるが緑や樹木などがきちんと整備されておらず、またイベントごとでの活用も少ない。そこで、田川に休憩や飲食ができる憩いの場の設置や緑や花など豊かな自然で埋め尽くす、田川を楽しんでもらうために家族連れやペット連れが利用できる大規模な公園整備などを行うことを提案する。

提案にあたり、実際に田川を歩いて調査した。また学生に対するアンケート調査や他都市の事例として群馬県前橋市広瀬川・高崎市烏川を視察した。それらを踏まえ提案を行う。

2 提案の目標

積極的な利用がなされていない田川に休憩や飲食ができる憩いの場の設置や緑や花など豊かな自然で埋め尽くす、競歩大会などのイベント場所として提供を行うなど有効活用することで宇都宮市民への認知度向上を図る。これにより、田川に愛着を持ってもらい、田川を楽しんで日常的に利用してもらうことが目標である。

都市に存在する河川は、その都市の最も貴重な自然の空間であり、多くの都市で様々な活用がなされている。人々が集う場所、自然を満喫する場所、様々なイベント行う場所あるいはその都市の観光資源としても活用されている。田川がそこに訪れた人が楽しく利用できる場所になることにより、餃子だけでない宇都宮の新たな魅力を作り出すことも可能であり、中心市街地の活性化にも繋がると考えられる。

この提案を通して、田川という貴重な地域資源を活かし、宇都宮をより魅力あるまちにすることを目指したい。

3 憩いの場の設置や自然で埋め尽くすことの効果と可能性

提案の前に憩いの場の設置や自然で埋め尽くすことの効果について説明する。また、これらを行うことの可能性についても考えたい。

3.1 憩いの場の設置や自然で埋め尽くすことの効果

都市の中心を流れる川に憩いの場の設置や自然で埋め尽くすことには、様々な効果がある。群馬県前橋市の広瀬川を調査した際に気付いた効果は、以下のとおりである。

《憩いの場を設置したことによる効果》

- ・ 等間隔に設置することで、こまめに休憩を取ることが可能になり、天気や体調に合わせて歩くことができる
- ・ 老若男女といった世代を超えての人々の交流を可能にすることができる
- ・ 都市内外から人々を集める観光資源にできる など

《自然で埋め尽くすことの効果》

- ・ 人々に近づきやすい川という印象をあたえる
- ・ 四季に応じて様々な風景をつくりだせる
- ・ 都市内に貴重な自然をもたらすことができる
- ・ 夏場には水と緑でゆっくりと涼める場所を提供できる など



写真1 群馬県 広瀬川

3.2 憩いの場の設置や自然で埋め尽くすことによる波及効果

都市の中心部を流れる川に憩いの場の設置や豊かな自然で埋め尽くすことにより、直接的な効果のほかに波及的な効果を期待することもできる。

1つ目は、都市の観光資源の一部に位置づけることにより、都市内外から多くの人を集めることが可能になり、地域活性化を促すことに役立つことである。実際、栃木市の巴波川をはじめ、前橋市の広瀬川、北九州市の紫川、京都の鴨川、大阪の淀川、東京の隅田川など、観光にも役立っている都市河川は枚挙にいとまがない。2つ目は、川に様々な人が集うことにより世代を超えた交流を促すことが出来るので、結果的に地域のコミュニティの醸成や防災、防犯の効果などの面での期待ができ、安全で安心なまちにつなげることもできる。

本提案では、上記の2つのことを盛り込み、田川の新たな活用方法について検討していくこととする。

4 現在の田川の活用状況

現在、田川では、日常的な活用とイベント時の活用の2つの活用方法がある。

《日常的な活用方法》

- ・ 水辺の近くを歩ける歩道での散歩およびジョギング
- ・ 宇都宮市城東橋～下野市坪山橋までの田川河川堤防上のサイクリングロード
- ・ 田川でのバス釣り



写真2 田川サイクリングロード

《イベント時の活用》

- ・ うつのみや平和祈念館をつくる会主催の宇都宮空襲犠牲者追悼「ふくべ灯籠流し」(2002年から開催)
- ・ 2日限定で田川に屋形船を浮かべる (2006年開催)
- ・ NPO法人とちぎグリーンエージェント主催の田川ラフティング (2009年から開催)
- ・ 宇都宮東ロータリー50周年記念 フナ1万匹放流 (2010年開催)

- ・ 田川いきいき計画絵画コンクール （2011年開催）
- ・ 田川で押切橋から上流に鯉のぼり
- ・ 田川にアユの放流
- ・ 「いきいき田川クリーン運動」などの清掃活動



写真3 ふくべ灯籠流し



写真4 田川ラフティング

5 現状の分析と課題

提案にあたり当研究会では、実際に田川を歩き現状を調査した。また田川の認知度を把握するため学生に対するアンケートを実施した。それらを踏まえ、現状の課題と問題を整理する。

5.1 都市内の川に関するアンケート調査から

当研究会では、都市内の川に関する意識を探るために、宇都宮共和国の学生を対象にアンケート調査を実施した（アンケートは、授業の際に学生に配布して実施した。配布数 90、回収数 90）

《田川についての認知度》

田川という川の名前を聞いたことのある学生は7割近くで、比較的認知度は高い。

しかし、名前は知っていても具体的な場所をわからないとするものが3分の1に達しており、知名度はそれほど高くはないといえる。また、田川の名前を知っている学生の内、田川を歩いたことのない学生が34%を占めている。

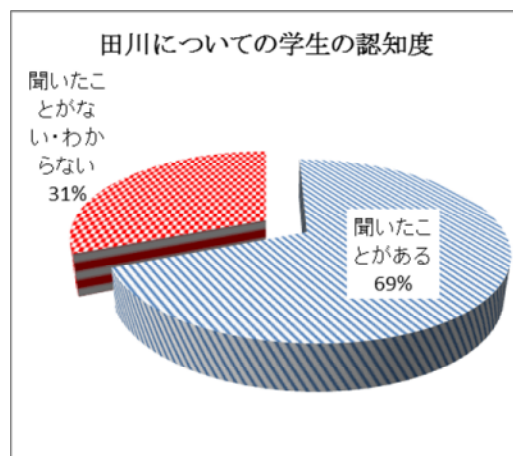


図1 共和国生の田川の認知度

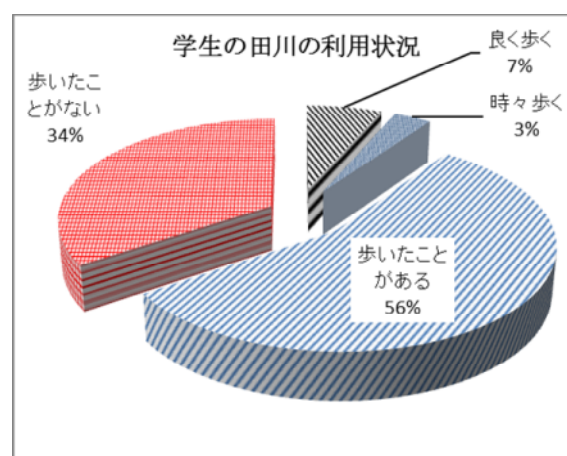


図2 共和国生の田川の利用（聞いたことのある学生対象）

《行ってみたい川について》

一方、都市内の川に対する意識として、行ってみたい川について聞いてみると（3つまでの複

数回答)、「水辺の近くを歩ける(散歩できる)安全な道がある」「休憩や飲食がゆっくりできる場所(公園やベンチ・休憩所)がある」ことなどが回答者の半数以上の支持を集めており、散歩や休憩の場所として考えられていることが分かる。行ってみたい川の内容は男女により大きく異なっている点もある。「ジョギングやスポーツ」あるいは「魚釣り、ボートのり」などは男性に強く支持されているが、女性にとっての魅力は少ない。それに対してカフェの存在やおしゃれな店の存在は、女性が川に行く大きな要因となっている。

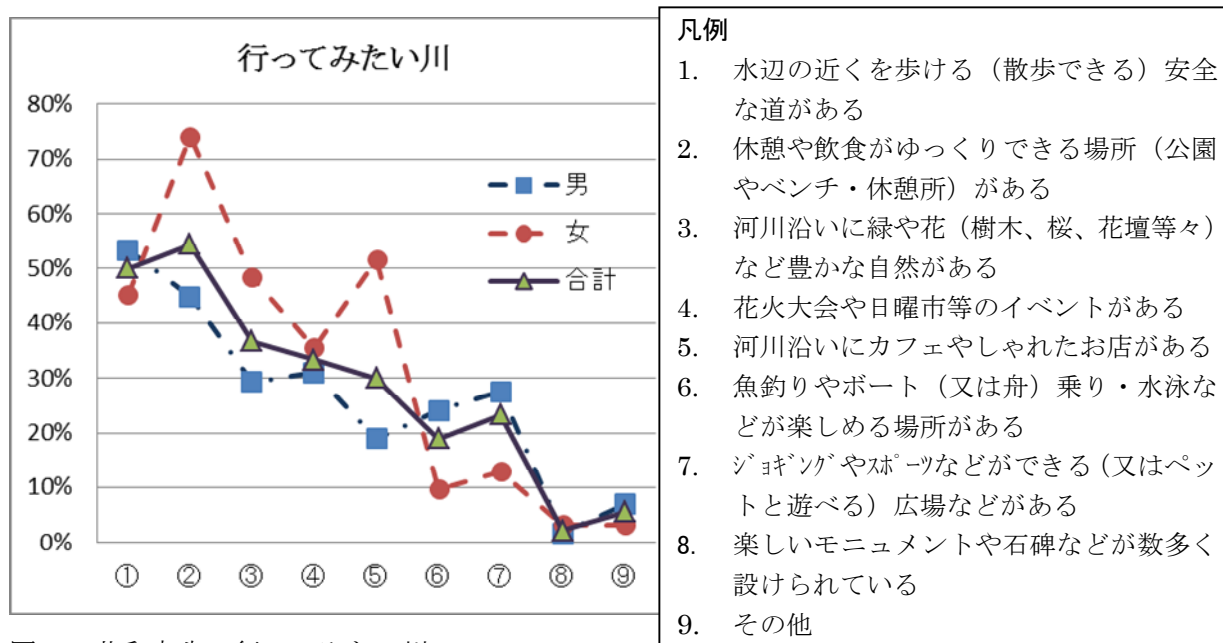


図3 共和大生の行ってみたい川

5.2 活用の問題

《現状》

田川では、サイクリングロードや歩道といった日常的な活用とふくべ灯籠流しや田川こいのぼりなどのイベント時の活用という2つの側面がある。これらは、宇都宮駅周辺の中心市街地で行われている。

ここで問題にしたいのは、このような活用が行われているのが宇都宮駅周辺の中心市街地のみであるということである。宇都宮駅から少しでも北上もしくは南下すると写真5や写真6のように田川沿いではあるが、都市の河川とは思えない手入れがされていない状態ある部分が現れる。田川沿いで整備されてない南部には、サイクリングロードのみが通っている。しかし、このサイクリングロードは歩道と兼用になっている。これでは、子供連れや高齢者の方が安心して歩くことができない。



写真5 整備できそうな土地①



写真6 整備できそうな土地②

《課題》

田川で水辺を活かしたまちづくりを行うには、中心市街地周辺以外の土地も有効活用する必要がある。整備されていない土地をそのままにしておくより、休憩や飲食ができる憩いの場の設置や緑や花など自然で埋め尽くす、歩行者が安心して歩ける歩道の整備を行うなど人々が日常的に利用したいと思う工夫を施す。それに加えて、歩道とサイクリングロードを分割することで歩行者にも安心して利用してもらえるようにする。

今まで、整備されていなかった土地に憩いの場や自然を加えることで、景色と印象をガラッと変えることができると考えている。このような、日常的に利用したいと思わせる整備を行うことが田川をより身近に感じてもらうために必要である。

5.3 景観の問題

《現状》

田川の歩道を散策して、コンクリートが景観の大部分を占めていることが気になった。写真7のように田川の歩道には、緑や花といった自然が少なく、憩いの場や石碑、モニュメントといった人工物の設置がほとんどないため、歩いていても親しみやすさや楽しさが感じられない。



写真7 田川沿いの歩道

《課題》

歩いていて親しみやすく楽しい田川にするために、休憩や飲食ができる憩いの場や栃木県出身の著名人のことが学べる石碑、川の景観を損なわないモニュメントといった人工物の設置を行うことが必要であると考えます。田川は、自然環境の保護が優先されているので、自然美と人工美が調和できるものを設置する必要がある。

5.4 田川の活用に参加となる事例

当研究会では、群馬県前橋市を流れる広瀬川と高崎市を流れる烏川を調査した。また、川を活かしたまちづくりの参考として、栃木市を流れる巴波川、福岡県北九州市を流れる紫川を取り上げる。そして、これらと田川を比較してみる。

5.4.1 群馬県前橋市広瀬川

前橋駅から徒歩15分、前橋市の中心を流れる広瀬川は、自然と人工物が調和していた。まず川沿いは緑や花など豊かな自然で埋め尽くされていた。次に設置されている人工物には、地元で縁のある偉人『萩原朔太郎』の石碑（写真8）や自然の景観を損ねないモニュメントなどがあり歩行者を楽しませる工夫が施されていた。（写真9）休憩や飲食ができる憩いの場やモニュメントなどの人工物は、等間隔で設置され、当研究会で訪れた時も多くの人が利用していた。広瀬川の川沿いを歩いていくと大規模な公園である前橋公園が整備されていた。そして、広瀬川には、写真10のような、川の流れて生じるエネルギーを利用し、



写真8 萩原朔太郎の石碑

川にイルミネーションを行う装置が川の間地点に整備されていた。



写真9 自然美と人工美の調和



写真10 イルミネーション装置

《田川との比較》

田川にも自然やベンチはあるが、広瀬川ほどではない。また、田川には地元縁のある偉人の石碑など都市の歴史について興味を持たせるものがない。自然や憩いの場、人工物を設置することは、新たな景観を作り、親しみやすさや楽しさを演出することにつながるのではないかと考えられる。

5.4.2 群馬県高崎市烏川

高崎市を流れる烏川は、田川より少し広い川幅がある川である。烏川の両端には緑と整備された幅広い歩道があり、歩行者や自転車が通行しやすいようになっていた。そして、川の真ん中には高崎カントリークラブなどが建設されていて、幅の広い川を有効に活用していた。(写真11)

川沿いに幅広い歩道はあったが、休憩や飲食ができる憩いの場は見つからなかった。



写真11 烏川

《田川との比較》

休憩や飲食ができる憩いの場が少ないことは、共通している。だが、田川は川の真ん中を利用していない。田川も川幅が広いので、特に川が合流する地点などでは川の真ん中の部分が活用できると考えられる。

5.4.3 栃木県栃木市巴波川



写真12 巴波川

蔵のまち栃木を流れる巴波川は、景観を損ねないような作りになっている。季節に応じて川を目立たせる工夫がある。例えば、鯉のぼりを川の上に吊るすことや約3万個の発光ダイオードを駆使し、巴波川を600mに渡りイルミネーションを施していることである。また、巴波川には堰があり、舟を浮かべているので、舟に乗って川を楽しむことができる。(写真12)

《田川との比較》

田川でもイベント活動の一環として、田川ラフティングを行っている。そのため、田川にも舟を浮かべることが可能であると言える。また、田川はイルミネーションを行っていないので、巴波川のように距離を決めて行えば、新たな観光資源になると考えられる。

5.4.4 福岡県北九州市紫川

紫川は、「紫川マイタウン・マイリバー整備計画」の認定と市民アイディアの盛り込まれた整備計画に沿って整備された。(写真13) 公園などの公共施設や川沿いの市街地が河川とともに整備されたため、水辺を美しいまち並みが形成している。整備された公共空間を活用し、オープンカフェや水遊びの場などがあり、四季に応じてのイベント開催されている。(写真14)



写真13 紫川



写真14 紫川イルミネーション

《田川との比較》

こうした大々的に整備事業を行うことで、大きなインパクトを与えることができる。このような整備事業ができれば、景観を綺麗にするだけでなく、新たな観光資源にもなる。また、都市の回遊性向上にも役立ち、地域住民が過ごしやすい街になると考えられる。

《参考にした都市から考えるべきこと》

群馬県前橋市広瀬川では、前橋市出身の詩人『萩本朔太郎』を活かし、萩本朔太郎の銅像や詩の書いてある石碑と自然、憩いの場などを駆使し河川の演出を行っている。群馬県高崎市烏川では、川の両端には木々を植え、川の真ん中には高崎カントリークラブなどを建設した河川の活用を行っている。栃木県栃木市巴波川では、蔵のまち並があることから、蔵の景観を損ねない演出をしている。福岡県北九州市紫川では、大規模な整備事業を行い、新たなまち並みを演出することに成功し、市民が楽しんで利用できる空間になっている。そのため、田川の整備には、今まで上げたことを取り入れるだけでなく、田川らしさを考えた演出を行うことが望ましいと言える。

では田川らしさとは何か。当研究会では、田川らしさを出すためには、宇都宮に現在ある資源を有効活用することに加え宇都宮に縁のある偉人の歴史を紹介できる様なものを設けることが大切であると考えた。このことを前提に、次の施策事業を提案する。

6 施策事業の提案

6.1 具体的な提案

田川を活用してまちづくりを行うには、【5 現状の分析と課題】で挙げた課題を解決する必要がある。そこで当研究会では「田川を知る」・「田川を楽しむ」・「田川を活用する」の3つの柱を立て提案をする。

6.2 田川を知る

田川が存在を宇都宮市内外の人にも知ってもらうための提案である。

ア) イベントなどで積極的に活用する

田川を大勢の人に知ってもらうために、田川をイベント場所として提供する。それにより、田川の名を広める。イベントの内容として、イルミネーションや屋形舟を浮かべるなどが挙げられる。その他に、現在、栃木では数多くの映画作品が取られているので、田川を映画の舞台として貸出しを行う。

また、田川の北部と南部には周辺が開発されていない（農地等）土地が多数存在している。こうした場所では、花火大会などのイベント開催を考えるべきである。

イ) 田川を題材にしたコンテストを実施する

2011年1月に行われた「田川いきいき計画絵画コンクール」のように、市民からアイデアを募集する。優秀な提案をもとに、田川の整備を行う。また、優秀な提案は宇都宮駅に作品などを飾り、駅を利用している人に知ってもらう。

6.3 田川を楽しむ

田川でどのようなことができるのかを考え、私たちにとって田川をより身近なものにすることで、田川に親しみを持ってもらうための提案である。

ウ) 田川に休憩や飲食がゆっくりできる憩いの場を設置する

田川に写真15のようなベンチや写真16のような憩いの場を設置する。これにより、世代を超えた交流がしやすくなる。また、このようなデザインなら自然との調和がしやすいのではないかと予想される。そして、休憩や飲食がゆっくりできる憩いの場は、宇都宮駅周辺といった中心市街地だけではなく、日常的に利用されるサイクリングロードが通っている範囲に設置すべきであると考ええる。



写真15 ベンチの例



写真16 休憩所の例

アンケート調査の結果では、女性（女子大生）は、休憩や飲食がゆっくりできる場所があることと、河川沿いにカフェやしゃれた店があることを訪れたい川の条件としてあげていた。ゆっくり休憩や飲食ができるだけでなく、沿川にしゃれた店やカフェなどがあれば、より川を楽しむことが可能となると思われる。

エ) 河川沿いに緑や花など豊かな自然で埋め尽くす

川に自然があることで人々に近づきやすい川という印象を与えることができる。自然があることで、景観がよくなり、四季に応じて景観を作ることにもできる。自然で埋め尽くす方法として、田川を桜並木で埋め尽くすことを提案する。その理由は、宇都宮には桜の名所が少ないことである。八幡山公園の桜では観光客を集めるには程遠い。宇都宮には、桜通りという通りがある（現在桜はない）。おそらくかつて桜の名所であったと考えられる。桜を新たに田川で再現したい。現在も田川沿いに桜の木（枝垂桜）はあるが、上の部分が切られてしまっている。写真17のよう

な桜並木を作り、平成のさくら通りを作りたい。



写真 1 7 太平川の桜並木

オ) 魚釣りや舟乗り・水泳などが楽しめる場所を設置する

河川を楽しむには水に触れることが重要だと考える。それには、魚釣りや水泳などが楽しめる場所があれば幼い時から利用できるのも田川をより身近に感じることができる。

カ) 大規模な公園を整備する

田川の近くに大規模な公園を整備することで、ジョギングなどのスポーツやペット連れで楽しむスペースができる。そうすれば、田川を日常的に利用する人が増えると予想されるので、田川をより身近に感じてもらうのに役立つと考える。(写真 18)

学校行事のレクリエーションや地域主催のウォークラリー大会などで公園の利用を行えば、より田川に愛着を持ってもらえると予想する。また、レンタサイクルを活用し、公園とサイクリングロードを走ってもらう工夫を施すことで、宇都宮市外の人も気軽に田川を散策してもらえるようにする。



写真 1 8 前橋公園

田川沿いには、有効活用されていない土地が多数残存している、これらの土地を活用して大規模な公園をつくることは十分可能と考える。

6.4 田川を活用する

田川の存在を宇都宮市内外の人にも周知してもらい、田川を活用したイベントの開催をしようという提案である。アンケート調査の結果からも、田川の認知度は余り高くないのが現状である。

キ) 田川を巡るイベントを行う

田川の周りをコースに競歩大会やマラソン大会、ウォークラリーなどを実施して、田川全体を巡ってもらう。これにより、田川全体を知ってもらい、より身近なものにしてもらう。

ク) 「メイド イン 宇都宮」の開催

益子で開催されている「メイド イン 益子」のようなイベントを宇都宮でも開催し、宇都宮の魅力を宇都宮市内外に発信する。宇都宮で作られたものの販売や宮染めなどの伝統工芸を知ることができる工夫を施し、宇都宮の魅力を再発見する。田川沿いの空間を活用することも可能だが、新たにつくった大規模な公園でイベントを行えばさらに効果的であると思われる。

ケ) お花見の季節に屋形船を浮かべる

田川の桜が咲く時期に屋形船を浮かべ、田川の桜を満喫してもらう。2006年に2日間定で

屋形船を浮かべていたという記録があったので、お花見の季節に浮かべてもらう。

《施策事業の注意点》

平成 23 年 9 月 22 日の台風直撃で田川が増水した。このように河川は、急な増水が起こることが予想される。その対策として、降水確率が高いときは田川の利用をしないようにレディオベリ―などで呼びかけを行うことが必要であると考ええる。

7 おわりに

当研究会では提案にあたり、田川現地の調査や他都市での調査をふっまえて田川の活用方法を検討してきた。田川は、他都市に比べると積極的な活用がなされていないように思われる。他都市は、自然と人工物を上手に調和させ、景観を損ねないように留意しながら、その都市ならではの景色やまち並みを作り出していた。現在の田川は、組織だった活用がされておらず、親しみやすさや楽しさが感じられない場所であると思われる

しかし、提案でも述べたように、田川を活用する方法数多く存在する。既存の活用方法に合わせ新たな活用を行っていくことが田川をより身近に感じてもらうことにつながると考える。都市に存在する川を上手に活用している都市は非常に多い。同じことが田川でもできるはずだと考えている。田川を活用し、水辺を活かしたまちづくりを行い、宇都宮のブランド力向上を目指し、宇都宮をより良いまちにしていきたい。

参考資料

- ・ 栃木観光・物産ガイドホームページ <http://www.tochigiji.or.jp/3351.html>
- ・ <http://blog.goo.ne.jp/05a21/e/5c50fcffa39d3a3d1ee977a5d471ca98>
- ・ 鬼怒川 N A O C ホームページ <http://www.naoc-jp.com/2516.php>
- ・ 下野新聞社ホームページ
<http://www.shimotsuke.co.jp/town/region/central/utsunomiya/news/20101018/398688>
- ・ <http://kobahiro962hk.jugem.jp/?eid=8>
- ・ <http://kakorinn.blog100.fc2.com/blog-entry-44.html>
- ・ 景観まちづくりホームページ
http://www.mlit.go.jp/crd/townscape/townscape_b/jusyou/07machinami/myriver.htm